



● 通常授業以外の英語教育もユニーク

上記は通常授業の話ですが、特進インターナショナルの魅力は、それだけではありません。その一つは「ネイティブ補講」です。広尾学園には常勤のネイティブ教員が8名ほどいますので、休み時間や放課後などを利用して、授業で分からなかったことの質問や学習相談、個別指導などを受けることができます。

二つめは、夏休み中の、特進インターナショナルだけの「サマーキャンプ」です。広尾学園の校外施設「富士見スコレー」（長野県）を拠点にして、さまざまな体験プログラムが組まれます。毎日英語漬けの日々となりますが、楽しみながら英語を学ぶ良い機会です。

三つめは「オーストラリア留学」です。夏休みの期間を利用して20日間の“短期留学”に参加できます。提携校での授業は、いつもの授業とは一味違った経験になりますし、同年齢の生徒同士の交流も幅広い学習効果をもたらすでしょう。また宿泊先は、安心できる一般家庭ですので、現地での生活を通して、英語力や異文化理解のさらなる強化を図れます。

もう一つ、一昨年の「J8サミット」の日本代表に、広尾学園チームが選ばれていることをご存じの方も多いでしょうね。毎年、先進国首脳会議（G8サミット）と同時に開催される中高生の国際会議「J8サミット」には、毎年応募しています。英語での論文提出とプレゼンテーション能力が試される熾烈な選考となりますが、準備段階からのディスカッションや調べ学習などは実践的な訓練の機会となっています。

小山 和智（おやま かずとも）

広尾学園中学校高等学校 国際担当



海外子女教育振興財団の外国語保持教室主任のほか、ジャカルタ日本人学校事務長、クアラルンプール日本人学校国際交流ディレクター、啓明学園国際教育センター所長を歴任。

現在は「グローバル化社会の教育研究会」の事務局長としても活躍中。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/>

帰国生入試の方式の変更

特進インターナショナルクラスに「SG」が設けられるのに伴い、中学入試の方式も変更となりますので、ご注意ください。

まず、試験当日の「面接」がなくなって、事前相談（必須・保護者同伴）と合格後のネイティブ教員面接により「AG/SG」のグループ分けが行われます。

入試の試験教科は、次のAまたはBのどちらかを選択して受験します。

A：英語による「英語」「算数」「理科」および「日本語」

B：日本語による「国語」「算数」「理科」「社会」

= 本科の入試と同様の問題

※「英語」「国語」「算数」は各50分（100点）、
「理科」「社会」「日本語」は各30分（50点）です。

入試日程は、12月21日（月）が国際生入試で、「現在の保護者とともに海外在住経験が3年以上あり、帰国後18ヶ月以内の帰国生」を対象に実施します。

また、2月2日（火）と2月4日（木）には、一般入試の日程と並行して特進インターナショナルの入試を行います。つまり、上記のBを選択した受験生は、国内生と一緒に同じ問題で受験することになりますが、選考は別になります。もちろん、Aを選択した受験生は、英語での3教科と「日本語」での選考です。

特進インターナショナルの募集定員は、20名（AG＋SG）です。クラスに欠員があれば、7月初旬に国際生二期試験を実施し、合格者はサマーキャンプから参加していただきます。

広尾学園中学校高等学校

〒106-0047 東京都港区南麻布 5-1-14

TEL：03-3444-7271 FAX：03-3444-7192

HP：www.hiroogakuen.ed.jp



2007年の共学化に伴って「順心女子学園」から「広尾学園」と学校名変更。その後も数々の改革を続けています。

その成果への保護者・受験生の注目の一例が、5000人以上の中学受験者数です。帰国生にとってもインターナショナルクラスなどで、更なる発展を続けていく、「ますます目が離せない」学校です。